

# 吉田洞谷

別号

吉田蘭英斎

よしだ・とうこく

よしだ・らんえいさい

福山藩御側絵師

## 経歴

生:天保2年(1831年)、江戸大塚生まれ

没:明治20年(1887年)ごろ、享年56歳ぐらい

|                |     |                          |
|----------------|-----|--------------------------|
| —              | —   | 吉田洞京(春安)に師事              |
| —              | —   | 吉田洞京の養子となり、その娘に婿す        |
| —              | —   | 江戸駿河台狩野家門で画技を学んだらしい      |
| —              | —   | 書を小島成斎に学ぶ                |
| 弘化2年(1845年)12月 | 14歳 | 福山藩主阿部正弘公に御目見得           |
| 弘化3年(1846年)    | 15歳 | 阿部正弘公の御側絵師となり、吉田洞京の家督をつぐ |
| 文久3年(1863年)11月 | 32歳 | 福山に引越し                   |
| —              | —   | 長州の役で広島へ従軍               |
| 慶応元年(1865年)12月 | 34歳 | 江戸へ移る                    |
| 明治元年(1868年)5月  | 37歳 | 福山に引越し                   |
| 明治2年(1869年)    | 38歳 | 箱館の戦いに従軍し鷹翼隊に編入される       |
| 明治3年(1870年)    | 39歳 | 藩校誠之館において画学小教授心得         |
| 廃藩後            | —   | 東京において私立画学校を開く           |

## 生い立ちと学業、業績

江戸大塚生まれ、高橋嘉右衛門の三男。名は春良、画号は洞谷、蘭英斎、雲溪、松濤軒。吉田洞京(春安)に師事しのち養子となり、洞京の娘に婿した。

洞谷の名からして江戸駿河台狩野家門で画技を学んだらしい。人物画を得意とした。書は小島成斎に学んだ。

狩野派画人として弘化2年(1845年)12月に福山藩主阿部正弘公に御目見得し、弘化3年

(1846年)より阿部正弘公の御側絵師(12石12人扶持)をつとめ、洞京の家督10人扶持を襲いだ。洞谷が描いたものには阿部正精公像、阿部正弘公像、正弘公夫人謹子像があり、今に残っている。文久3年(1863年)11月、阿部正方公に従い福山に引越し、長州の役では広島へ従軍した。慶応元年(1865年)12月には阿部正方公の参府のため江戸へ移り、慶応2年(1866年)3人扶持加増した。明治元年(1868年)5月には再び一家をあげて福山へ引越し、明治2年(1869年)に箱館の戦いに従軍し鷹翼隊に編入された。

明治3年(1870年)に、藤井松林とともに藩校誠之館において画学小教授心得となった。

廃藩後は東京へ戻り、私立画学校を開いたという。のち病没。

### 誠之館所蔵品展示品

| 管理No. | 氏名               | 名称                   | 制作/発行  | 日付      |
|-------|------------------|----------------------|--------|---------|
| 00319 | 吉田洞谷 画           | 日本画「阿部正弘公肖像画(複写)」    | —      | —       |
| 05365 | 藤井松林ほか 画         | 日本画「備後画人寄書」          | —      | 明治10年ごろ |
| 07020 | 藤井松林ほか 画         | 日本画「福山藩画人花寄書」        | —      | —       |
| 07016 | 吉田洞谷 画<br>小寺清先 書 | 和歌「霞浦堤柳」             | —      | —       |
| t1060 | 吉田洞谷 画           | 「三人図」                | —      | —       |
| 07271 | 福山城博物館 編         | 『福山阿部家展—受け継がれた武家資料—』 | 福山城博物館 | 平成27年   |

出典1:『藤井松林』、131頁、福山市立福山城博物館編刊、平成3年10月5日

出典2:『福山の日本画展』、76頁、福山市立福山城博物館編刊、平成5年4月3日

出典3:『福山藩の文人誌』、187頁、濱本鶴賓著、葦陽文化研究会編刊、1988年7月27日

出典4:『郷賢録』、50頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

出典5:『福山藩の日本画』、73頁、福山城博物館編刊、2004年10月10日

出典6:『福山藩の教育と沿革史』、167頁、清水久人著、鷹の羽会本部阿部正弘公顕彰会刊、1999年8月20日

2009年6月23日追加●2014年3月12日更新:誠之館所蔵品展示品●2014年9月19日更新:誠之館所蔵品展示品●2015年2月28日更新:誠之館所蔵品展示品●2015年12月8日更新:レイアウト・誠之館所蔵品展示品●